

令和5年度（2023年度） 今治北高校大三島分校 シラバス

教科	地理歴史	科目	歴史総合	学年	第1学年	類型	
単位数	2単位	教科書	「現代の歴史総合　みる・読みとく・考える」（山川出版社）				
補助教材							

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	--

学期	月	単元	学習内容・単元の目標	定期 考查
1 学期	4 月	① 結びつく世界と日本の開国	・欧米諸国が東アジアに勢力を拡大した理由と、開港場の増加や貿易制限の緩和など中国の外交政策の転換について理解する。 ・日本でも「鎖国」政策の転換をせまられ、貿易の開始がその後の政治に与えた影響について理解する。 ・日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などをもとに、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・明治維新後の日本が、外交交渉を通して、主権国家、国民国家の形成をめざしたことについて理解する。 ・日露戦争後の日本の動向、および韓国の植民地化など東アジアをめぐる国際関係の変容について理解する。 ・第一次世界大戦がなぜ最初の「大戦」となったのかを理解する。 ・第一次世界大戦と日本の関わりについて理解する。 ・コミンテルンの設立と、それに応じた諸外国の反応を理解する。 ・第一次世界大戦後のアメリカ合衆国の国際的地位の上昇とアメリカ国内の考え方の差異について理解する。	中間 考查
	5 月	② 国民国家と明治維新		
	6 月	③ 総力戦と社会運動		期末 考查
	7 月			
2 学期	8 月	④ 経済危機と第二次世界大戦	・アメリカ合衆国で大恐慌が発生した原因と対策、および世界への波及について理解する。 ・アメリカ合衆国のニューディール（政策）とその後の国内の変化について理解する。 ・ファシズムの伸長によりヴェルサイユ体制が崩壊したこと、またそのなかでコミンテルンやソ連がファシズムに対してとった対応を理解する。	中間 考查
	9 月			
	10 月			
	11 月			
	12 月	⑤ 冷戦と世界経済	「冷戦と国際関係」「人と資本の移動」「高度情報通信」「食料と人口」「資源・エネルギーと地球環境」「感染症」「多様な人々の共存」についての諸資料を活用して、情報を読みとったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会のあり方がグローバル化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。	期末 考查
3 学期	1 月	⑥ 世界秩序の変容と日本	・冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 ・紛争の解決に国際機構や日本が果たした役割について理解する。 ・冷戦終結から現代に至るまでの諸課題の形成について整理し、今後の課題解決について考察し、表現できるようにする。	学年末 考查
	2 月			
	3 月			

学習の方法	・講義型の授業を中心としたうえで、動画や画像などの資料を活用する。 ・グループワークやペアワークの時間をとり、生徒が主体となって考える時間をつくる。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 技能：諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けているとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考查		